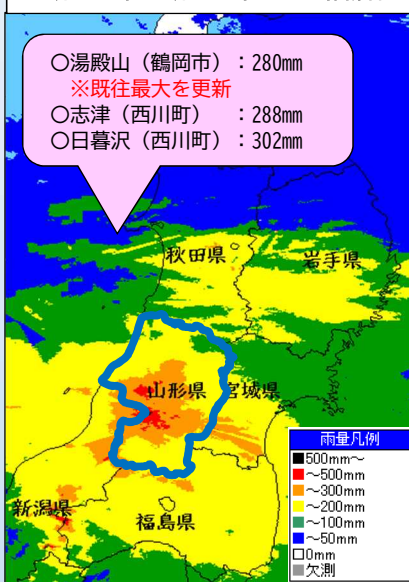


～令和2年7月豪雨を振り返る～

昨年7月に起きた豪雨のことは、みなさま記憶に新しいと思います。今回は、改めて昨年のことを振り返り、川の防災について学びましょう。

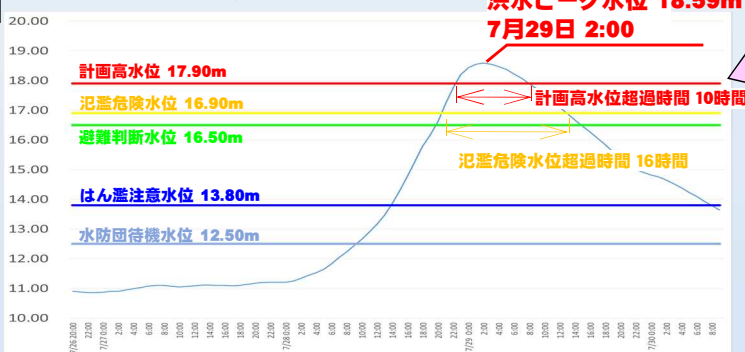
※7月27日9時から7月29日9時までの48時間累計

- 湯殿山(鶴岡市) : 280mm
※既往最大を更新
- 志津(西川町) : 288mm
- 日暮沢(西川町) : 302mm

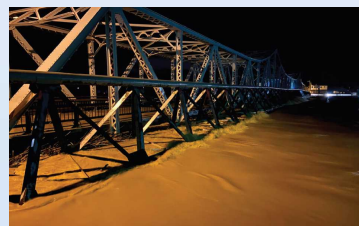


▲累加雨量レーダー
(統一河川情報システムより)

大石田水位観測所・水位 (m)



計画高水位・・・
河川整備の目標としている水位。この水位以下の水を安全に流すように堤防は設計されています。昨年の大石田水位観測所では、この水位を超過し、緊迫した状態でした。(観測史上最大)



▲大石田橋左岸状況



▲大石田町横山地内



▲大石田町豊田地内



▲大石田町今宿地内

一、防災情報を入手しよう

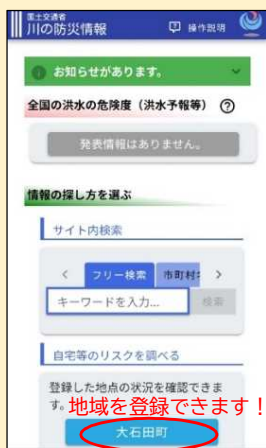
①ホームページ「川の防災情報」(PC版/スマホ版)では、以下の情報を見ることができます。

- ・水位情報
- ・ライブカメラ
- ・洪水予報
- ・避難情報、被害情報
- ・洪水浸水想定区域図
- ・レーダ雨量 等

水位情報では、堤防天端まであと何メートルかもわかります。是非自宅近くの水位計を確認してみてください。

川の防災情報 検索

URL <http://www.river.go.jp/>



▲川の防災情報(スマホ版)

②国土交通省では、災害発生時に地域住民の方々が適切な防災行動をとれるよう、プッシュ型配信による緊急速報メールの情報提供を実施しています。昨年は最上川においても配信されました。

受信した場合は、市町村の避難情報を確認し、速やかな避難行動をお願いします。

★スマートフォンがない人はテレビやラジオからも河川情報が分かります。

- ①TVをNHKに合わせる。
- ②リモコンのdボタンを押す。
- ③防災・生活情報を選択。
- ④河川水位情報を選択。

※はん濫注意水位を超えた場合のみ表示

エリアメール

氾濫のおそれ
警戒レベル4相当

最上川・最上小国川で氾濫のおそれ

堀内(舟形町)付近で河川の水位が上昇、氾濫が発生する危険があります

自治体からの情報を確認し、安全確保を図るなど速やかに適切な防災行動をとってください。今後、氾濫が発生すると、避難が困難になります(国土交通省)

▲実際の緊急速報メール受信画面(舟形町)

二、川は遅れて増水します

昨年は、雨が止んだ後に、最上川の増水のピークがやってきました。雨が止んでも油断せず、防災情報等を収集し、必要な場合は躊躇せず避難しましょう。

川の様子を見に行くのは危ないので絶対に止めましょう。

(参考)各水位観測所の平均到達時間

下野 (河北町)	1~2 時間	稲下 (村山市)	1~2 時間	大石田	1~2 時間	堀内 (舟形町)
-------------	-----------	-------------	-----------	-----	-----------	-------------

※雨の降り方によって到達時間は変わります。

三、昨年7月の体験を家族で振り返る

昨年の体験を無駄にしないために、この機会に家族や地域で話し合ってみましょう。

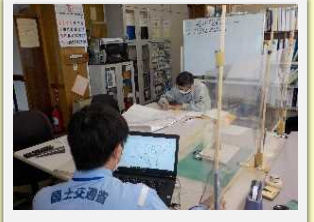
- ・自分の家は安全? 避難先はどこ? どうやって行く? →ハザードマップを再確認
- ・昨年はどこが冠水したか、通れなくなった道路はあったか?
- ・地域で、一人暮らしのお年寄りなど、避難が難しい人はいないか?
- ・非常持ち出し袋の中身は大丈夫か?

準備を万全にして、来る災害に備えましょう!

6月4日 洪水対応演習を実施しました

国土交通省東北地方整備局では、毎年、本格的な出水期（川が増水しやすい時期）を前に、大規模な出水・堤防決壊等の重大災害を想定した「洪水対応演習」を実施しています。当出張所では、大石田水位観測所で、はん濫危険水位（16.90㍍）を超え、計画高水位（17.90㍍）まで水位が上がるという想定のもと、本番さながらの訓練を行いました。

本訓練を生かし、実際の災害時でも円滑に対応できるようにしていきます！



6月9日 ポート巡視を実施しました

ポート巡視は、普段陸上からの巡視では発見しにくい河岸の崩落状況や、護岸の状況を、より近くから確認することができるため、河川を管理するうえで重要な調査となります。当日は、袖崎揚水機場を出発し、尾花沢市・舟形町境まで調査し、昨年度から大きな変状は認められませんでした。

今後も巡視を継続し、河川状況の監視に努めて参ります！



出典：地理院地図に位置情報等を追記して掲載

働く車を紹介します!!

Part.2

照明車

目的:災害現場では一刻も早い復旧が求められ、昼夜連続の作業を行う必要があります。照明車は、これらの夜間作業時に現場内を明るく照らし、安全に作業を行うために使用されます。

特徴:荷台は、トラックシャシをベースに発動発電機、照明装置昇降ブームに照明灯（2kw×6灯）を装備しています。最大で約20㍍の高さから広範囲に照らすことができます。6灯点灯時で約26時間の照明作業が可能です。



【発行】
国土交通省 東北地方整備局 新庄河川事務所 大石田出張所
(担当:三戸・浅沼)

〒999-4113 大石田町大字今宿字鷺の原466-2
(TEL)0237-35-2024 (FAX)0237-35-2354

※「川通信 おおいしだ」をご覧になってのご感想やご意見をお寄せ下さい。
※工事現場や河川管理施設をご覧になりたい方は、大石田出張所までご連絡ください。

ホームページもご覧下さい！
<http://www.thr.milt.go.jp/shinjyou>

新庄河川

検索

